

平成 23 年度第 4 回市民協働推進委員会会議概要

日 時 : 平成 23 年 12 月 2 日 (金) 9:30 ~ 12:00
会 場 : 市社会福祉センター地下会議室
出席委員 : 名和田委員長、浅野副委員長、寺田委員、木田川委員、渡辺委員、角田委員
事務局職員 : 小林自治人権推進課長、江波戸主幹、近田主査、石原主査補、
小田主査補、高柳主事
傍聴者 : 1 名

議題

(1) 平成 24 年度市民協働事業 (行政提案型) のテーマ選定について

(2) その他

1. 開会

事務局：定刻となったので、第四回市民協働推進委員会を開催する。本日の会議は概ね 2 時間程度を予定している。

委員長あいさつ

委員長：会議の進め方について確認を。傍聴人の方はあらかじめ事務局から説明されていると思うが、ルールを守っていただきたい。会議は全て公開。成立に関して確認だが、現時点で 5 名おり、過半数と言う要件を満たして、成立をしている。全員集まるのが望ましいが、忙しい時期なので日程調整上、仕方がないことかと。本日のメイン議題は来年度の市民協働事業である行政提案型のテーマ選定。それ以外はその他の項目にいくつかあるが、必要なものの審議を優先する。市民協働に係る自治会等への活動支援についての意見交換は場合によっては先送りになる。

(ここで「角田委員」入室)

(1) 平成 24 年度市民協働事業 (行政提案型) のテーマ選定について

委員長：2 つのテーマについて各課から説明いただき、それぞれについて委員会として採択するかどうかを決定したい。まずは行政提案型の概要を事務局から説明し、その後各課から説明いただく。

事務局：評価基準については、平成 20 年度に委員会の中で複数回協議いただき決定したものである。行政提案型における皆様の役割について資料に示している。今回はテーマ案の選定になるが、事業の趣旨としては、市が施策の実施にあたり、団体の知識、技術、スキル等を活用できるものとして募集に適する事業が対象になる。このあと公園緑地課と産業振興課からテーマ案応募用紙に課題等を明記したものをもとにプレゼンしていただく。委員の皆様には、各課のプレゼン及び応募用紙をもとに、現状・課題を十分に理解しているか確認した上で、市民への募集テーマとして適切か否か判断いただきたい。今回は 1 段階目のテーマ案の選定として諮ることになる。テーマ案が確定したら、1 月 1 日から広報さくら等において募集し、2 月以降に団体からのプレゼンを予定している。繰り返しになるが、この後公園緑地課と産業振興課からのプレゼンと資料をもとに、募集事業として適切かどうか判断していただく。

委員長：協働と言うのも随分考えられて久しいが、市民の側も行政側も慣れない面がある。各課に温度差がある。私が関わった目黒区では、行政提案型の事業を募集したところ、一件も応募が無かった。私から見ると行政の身勝手、自分の都合のよいテーマを提示していて、市民の間にどのような課題があり、どのように行政から提案すれば地域の活性化に繋がるかということについて、市民の提案を欠いた状態でテーマを定めて応募した面があるのではないかと思っている。その意味では、まだ行政側も協働について慣れていない課もある。せっかく市民の英知を集めた委員会なので、今回のテーマについても厳しく審査していただき、きちっとした結論を出してもらいたい。

公園緑地課からプレゼン

公園緑地課：公園緑地課では、これまでの花いっぱい事業を見直ししている。行政が花を配布している事業で終わっていないか、また、継続イベントを開催するだけでなく、特色のある事業を企画することが出来ないか、と言う課題を踏まえ、今回の協働事業に応募した。私共が提案したチューリップの花いっぱい事業は、新たな主体が関わることかけとなるよう、公園緑地課の花事業の一つとなっているチューリップの花植えや、佐倉ふるさと広場を拠点とした事業に協働事業をとりこんでみようとするもの。サブタイトルの楽しいチューリップ広場についてだが、チューリップ植えは来年で 24 年目を迎える。11 月に植えたチューリップの球根は約 8 万球で、20 種類の色や形の様々なチューリップが咲き誇っている。平成 24 年 4 月の事業開始から、チューリップ祭りに参加していただき、団体の考えてくるイメージを共有し、目標達成のためにどのような方法が良いのか、年間を通して現場での活動の中で検証しながら取り組みたいと思っている。今年を振り返ると、春にフラワーフェスタと言う事業があったが、この事業のコンセプトに掲げてきた花から花へ、人から人へのキャッチコピーの目指す所は、協働事業の中で生まれてくるものと考えています。しかし、正直なところ今回協働事業にかかわる団体が私共の

提案する花のまちづくりの基本理念、目的として掲げている「花を愛する人たち共に花いっぱい輪を広げられるような事業にすること」と考えているが、この基本理念に沿った提案があるかどうかは大変難しいと思っている。しかし、多様な主体が関わることで新たなコミュニティが生まれ、その中で人が育ち、花いっぱいのまちづくりを実現させていくことが出来るのではないかと期待している。これまでの花関係事業において、様々な業務を地域住民の参加協力のもとに心のふれあいと、美しいまちづくりを目指して行ってきたが、今後を見据えた長期的な事業展開を考え、協働事業と団体活動について理解・共感しながら支援し、それぞれの点と点を繋げて行く輪を作り上げていきたいと考えている。

委員長：委員から意見をいただきたい。選定に必要な意見を質問するのが基本スタンス。自由に質問してほしい。

委員：応募上限額を50万円を出しているが、応募は1団体か。それとも、小規模な団体がいくつか出てきたら、それを組み合わせることが可能か。人数的にそれほど大きな花作りをしている団体は無いと思う。趣味で同好会をやっている団体を組み合わせると実施すると言うのも大丈夫なのか。区分けをする他、季節ごとに交代する等。それとも1つの大きな団体でないと駄目なのか。

公園緑地課：もし万が一複数の団体が手を挙げて来た時なのだが、ふるさと広場を拠点にしているので、あまり違う考えの団体が一緒に参加するのは難しいと考えている。ふるさと広場の状況を見ていただいてもわかるように、花壇として出来ているものではなく、野原になっている。個々の考えでやる時に団体側でも難しいと思うので、これを一つにまとめようという考えが進められたら複数の団体も一緒にやっという考えではある。

委員：具体的に何をしてもらいたいかと言うのを端的に言うとなんのか。花壇作りなのか。

公園緑地課：テーマ案では花壇づくりと言うのを主に出している。花植え。ふるさと広場では春はチューリップ、秋コスモス、夏には花火大会が今年は中止になったので、ヒマワリを植えた。年間を通じて春から冬まで花を、出来れば植え続けて行きたい。複数の団体とのことだったが、個々の花で得意分野があるので、年間を通じたローテーションを組めれば、複数団体でやっていただいても良い。

委員：花の種、苗なども50万円に入っているのか。

公園緑地課：従前のこちらの事業と市民協働を併せてやっていきたいので、ヒマワリやチューリップは用意できる。チューリップの球根を掘り取っているので、再利用した球根、昨年咲かせたヒマワリの種も採取しているの、それを利用して活動していきたい。

委員：事業費と言うのはどのようなものを想定しているのか。

公園緑地課：シャベルや耕運機、トラクターは市で持っているの、団体が準備するものとしては多くない。ふるさと広場を使うので、肥料については市で予算化されている。

委員長：50万円をどのように使うのか。

公園緑地課：通常ではボランティアを募ってやっていたので、無償でやってもらっていた。こちらとしては、疲れを癒す為の飲み物等は用意している。今回の作業等に当たっては、このようなことで使われる場合と、花植えだけではなく、花植えに関する学習会や、イベントなども団体から提案されれば、それに充てていただく。チューリップ祭りの時は4月のスタートになるので、団体にいきなり活動していただくのは難しいと思っているが、夏のヒマワリ、秋のコスモス等で活動していただきたいということであれば、イベントの企画を練っていただき、その経費に充てていただきたいと思っている。

委員：既に、毎年チューリップは小学生が植えていたと思うが、それは無くなってしまっているのか。

公園緑地課：小学校の分と、チューリップ友の会の分の他に、区画が結構残っている。残った区画をある程度自由な発想で植えていただく。

委員：チューリップに関しては触らず、チューリップを掘り起こした後、秋までの間は全面を応募団体に任せると言う形か。

公園緑地課：そうなる。小学生が植える区画でも、団体による植え付け指導等、一緒にやっていただくということはある。

委員長：チューリップに限らないのか。テーマ案にはチューリップと書いてあるが。

公園緑地課：そうなる。チューリップを主体には考えている。

委員：既にコスモスとチューリップについては、協力団体の割合もできていると思う。チ

チューリップ祭りボランティアと言うのもある。チューリップを植えるだけならただの人手になってしまうので、少し絞り込んで、通年で花を愛でるような広場にしたいということで、この課題が残っているのだからここを解決できないか、と言う提案なら解消の仕方もある。通年で見るというと、チューリップ祭りのことも考えなおして良いのか、コスモスをやめて他の秋の花にしようというような発想も出てきてしまう。チューリップ祭りをこの2,3年の間に変えるのは無理であり、今を評価している人にとっては変えてほしくないと思う。もう少し絞り込んで、今出来ていないことは何かをはっきりと出し、それに対して市民の側から手を挙げてもらうようにした方が良い。今のままでは、どの部分から手を出して良いかわかりにくい。

公園緑地課：基本的にはチューリップ、ひまわりとコスモスについては年間を通じたスケジューリングは大まかにこちらにあるので、空いた区間で良い提案があれば、と言うことで考えている。

委員：具体的に何月から何月まで花を咲かせてほしいと言う提案の方が分かりやすい。

公園緑地課：確かにチューリップ祭りは我々だけではなく、産業振興課や観光協会等市全体で動いている。祭り自体について、大きく動かそうということはできない。市民の意見をなかなか取り入れられないので、協働事業の中で、春からのチューリップ祭りについて、来客する市民の目からではなく、協働に参観する方達の視点で祭りに参画していただき、そこから広場の利活用についての検討へ一歩を踏み出していけたらと思う。

委員：チューリップ祭りは観光協会が年間を通して一番力を入れている事業。そこに他の方々が入るとするのはどうなのか。観光協会がどう思っているかわからないが。

公園緑地課：観光協会がメインにやっている所と別の区画。風車を中心に、管理棟の3区画が市でやっている所。観光協会は風車の北側の田んぼがメイン会場。一部テント村もやっているが、それも観光協会と商工会議所が行っている。

委員：チューリップ祭りを公園緑地課として、祭りに参加する市民の意見を吸い出したいと思っているということと、広場を花いっぱいにして、通年花を愛でられるようにするというのは目的が違うと思う。分けた方がよい。チューリップ祭りで公園緑地課が管理している所を使ってチューリップ祭りに参画していただける団体と、チューリップやヒマワリ、コスモスを植えない期間の穴埋めを担ってくれる花を植える団体というのは、市民活動として別の団体だと思う。分けて考えた方が良いのではないかと。一緒になっているので漠然として何を求められているのか分からなくなっているのではないかと。

委員：花壇づくりを団体をお願いするとのことだが、風車を含めた全体をデザインするということから団体が関わるのか。ただ植えるだけではなく、公園のデザインも考えることから採択団体がやるのか。

公園緑地課：風車の周りにはかなりの面積の花壇があるのだが、現状ではそこを定期的に配布しているパンジー、マリーゴールドなどを点で植えて行くというアイデアのないものでやっている。絵を描く等、新しい提案を受けて一緒にやっていくというような形で考えている。

委員：市民協働をする時に、なんとなくこういうことをやっていただきたいという感じで公募すると、公園緑地課が思っていない団体も応募すると思う。具体的にビジョンを持っていただき、言葉に出していかないと、理想と違うことになってしまう心配がある。公園緑地課は毎年市民協働・行政提案型に出していてもありがたいので、良い形の結果が出るように具体的に案に見直してもらおう時間的か猶予がとれないか。

公園緑地課：具体的に提示すると、ただの委託事業になりかねない。今回は、応募された方の意見を取り入れるかどうかは別として、色々な意見を吸い上げて行きたいということがある。チューリップを植えてほしい。このような苗を用意するのでさあ植えて下さいと言うとただの作業になってしまいかねない。まずどんな花にしたら良いのか、どのように育てるのかという講習会もあって良いと思っている。

委員長：それはこの用紙から伝わって来ない。

公園緑地課：年間を通じて作業工程を作り、テーマ案を出して委託に取られるのが一番怖かった。

委員：そのポイントを押さえているのはとても良いと思う。受け取る側にそれが伝わらないといけない。資料を読んでもみると、花植えボランティアを念頭に置いている感じがする。花を植えることしか捉えられなくなっている。

公園緑地課：先日千葉のボランティアの活動を見学してきた。団体自らこの場所をこのようにしようと言う花植え計画を作っていた。出来ればそのような団体を見つけて、そのように繋げていきたいと思っている。

委員：それなら、具体的な場所だけ提供して、ここをスタート地点にして、ここからイン

パクトのある事業になるように、花を植えるとは言わず、ふるさと広場を活性化する公園緑地課に絡んだ何かをして下さいと提示した方が分かりやすいのではないか。

委員長：そろそろ時間になる。公園緑地課から何か回答はあるか。

公園緑地課：色々ご意見をいただいた中でさらに検討したいが、具体的にはふるさと広場をもう少し人が集まる場所にしたいと言うのが一番の目的。民間の団体の力を借りて、インフラ整備も足りないのは十分わかっているが、その中で広い世代が集まる所にしていきたい。色々な意見をいただいてより良い広場にしたいと言うのが公園緑地課の考え。

委員：場所、どこをどうすれば良いのかよくわからなかった。資料だけ読むと、総合プロデュースかと思っていた。事業に関する条件の項目で、作業の実施の際に健康に自信のある方を求めるとあるが、作業だけになってしまうので、デザイン等の配慮もしていただきたい。

産業振興課のプレゼン

産業振興課より資料をもとにプレゼンテーション

委員長：10分を目途に意見を伺いたい。私から。事業に関する条件の項目で、事前に設計図、植栽日程を市に提出し、許可を得ることとあるが、手引きの最後のフロー図とは違う別な手続きを要求するということが。

産業振興課：協議の中で出来る。この項目は削除する。

委員：事業費の50万円の中に、花の種、苗、肥料などの費用も入るのか。

産業振興課：全てこの中でやっていただく。

委員：産業振興課でもお手伝いをするということで、要望によってと言うことになると思うのだが、現段階で考えられることはあるか。

産業振興課：維持管理の部分。掃除等の維持管理は基本的に団体をお願いしたいのだが、花の入れ替えが必要だったりするので、処分を市で運搬する等、お手伝いする。あくまでも木の剪定などはその点に造詣の深い団体をお願いする。相談いただいたことは、協議の部分で対応する。

委員：観光情報センターがアピールされていないとの話だったが、市の運営しているものか。

産業振興課：市の施設で、観光協会に委託している。

委員：募集の仕方が上手。芝を切っても構わないのか。ある程度の制約の中で素敵な花壇を作って下さいと言うことか。耕す機材等は、市から貸し出すのか。

産業振興課：切っても構わない。貸出については、相談することになる。耕運機を入れると交通の問題も出てくるので、その辺も協議していく。

委員：ガーデニングに造詣の深い課長なので管理もやっていただけだと思う。50万円の中でやるとなるとこの程度の広さなのか。詳しくないので感覚的なのだが、もう少し広げてもよいのではないか。

産業振興課：120㎡。かなりの面積になる。これ以上広げると、このお金では厳しいかもしれない。ロータリーの真ん中に噴水があり、その周りが芝生になっている。そこをお願いしたい。芝生の中に散水栓も入っているので、その部分と排水溝を避けるとそれくらいの面積になる。維持管理で一番大変なのは、草取り。夏の一番草が生える時期は、毎日のようにやらなければいけない。50万円で、ある程度費用弁償もしながら、応募団体が賃金を払うのか、それともボランティアでやっていくのか、やり方にもよるが、1週間に一度の草刈りでは全く追いつかないことが、時期によってはある。そこで、グラウンドで使う芝生を入れたり、あるいは雑草が生えてこない草を植える等の工夫も考えられる。それらについて専門知識を持っている方の提案もあると思う。面積も必ずしも120㎡全てやって欲しいというわけではなく、もっと広げたいという提案があれば、所管している公園緑地課と十分協議したい。お～っとなるようにするにはどうしたら良いのかということをご提案していただき、選定いただければと思う。

委員長：駅前が寂しいのはその部分だけの問題ではなく、広告塔や看板など、景観法にかかわるような問題もあると思う。そういう観点から提案をしてくる市民もいるかもしれない。その場合は景観法を運用している部署とも調整するつもりはあるか。

産業振興課：基本的にはガーデニングなので、ガーデンの部分が中心になる。

委員長：駅前の魅力アップと言う課題について市民の知恵を募ろうというわけなのだが、

既にガーデニングに手段を限定すると言う提案か。

産業振興課：はい。

委員長：維持管理と言うと、かなり専門的な造園業者しか想定できない気がするのだが、産業振興課の長い市民との付き合いの中で、こういうことに手が上がる見通しがあるのか。聞いてはいけないかもしれないが。

産業振興課：市民の方々の中には、いくつかの団体がそのような活動をしている。何も無いただろうと言うことは無いと思う。

委員：公園全体の所有者はだれか。

産業振興課：全て市。所管については、ロータリーなので、道路管理課。芝生の上は公園緑地課。

委員：駅の正面なので、好きな方にとっては、達成感があるのではないかと思う。既に市民カレッジで定期的にプランターを植えているが、その辺の兼ね合いは。

産業振興課：折角やっている人たちのものをどけるということではなく、うまくコーディネートできるように公園緑地課を通じて、その方たちと直接お話ししてやっていきたい。決して排除してもめるようなことにはならない。

委員長：この後、テーマ案の協議に移る。今日は結論を出す必要がある。条件を付けることはできるか。

事務局：出来る。

委員長：条件付と言うことはあり得るが、基本的には委員会としての最終結論は出す必要があるので、そのつもりで協議していきたい。まずは公園緑地課について。

委員：条件を付けてと言うことになると思う。条件の付け方と言うのは、どのように付けるかが問題。質疑の中でも出ていたように、場所を決めて、通年お願いするのか、あるいは期間を決めて団体をお願いするのか等、条件をつければ良いのではないか。公園緑地課が言っていたチューリップ祭りでの意見の吸い上げ等、イベント的なことに重点を置くのか、花を植えると言うことに重点を置いた公募をお願いするのか、どちらにした

ら良いかはわからないが。

委員：もっとわかりやすく募集の表現をしていただきたい。場所をどこにするのか、どうしてもらいたいのかを。あまりに広くなりすぎていて、最初総プロデュースかと思っていた。

委員長：条件について、委員会として、こうしろと言うほどの権限は無い。ここをこうした方が良いですよと言う提案は大丈夫だと思う。担当課の提案があまりにもあいまいなため委員会がこれはこうと判断すると委員会が提案しているのと同じになってしまう。そこまでするなら、この提案はリジェクトするというのはどうか。提案が分かりにくくて何をやるのかわからないという程度の熟度であれば、担当課の提案が不十分だと言うことで否とするという結論もある。また、委員会の権限内で条件を付けることで何とかなるのであれば、なんとか付けて行きたい。

委員：個人的な意見としては、公園緑地課がフリースペースだと思っている場所があると思うので、その場所を毎年通してお願いする。その際、例えばチューリップ祭りやコスモまつりがある時に、さらにそのスペースを使ってチューリップの育て方の講習会をやる等は団体にお任せし、スペースで区切って任せると言うことで具体的に提案すれば、応募する団体もいるのではないか。

委員：長期的にはこのように漠然としたもので良いと思う。どれくらいのスパンでこれを解決したいのかをきちんと表に出す必要がある。長期的に目指していることを区別して、初年度はもう少し具体性を持った募集にしたらどうかという条件付けはできるのではないか。

委員長：あまりこちらが悩むようでは、意見を付けるにあたってどうなのかと言うのもある。

委員：正直、資料を読んだ段階では何をしたいのかわからなかった。話を聞いているうちに、委託ではなくて自由度を付けてお願いしたいという姿勢は評価したいと思った。否決するのではなく、前向きに検討できたらと思う。

委員長：事業区域を明示にして市民に公募して欲しいという意見は言えると思う。どこをプロデュースして欲しいのかわからない。もうひとつはプロデュースの余地があるということを明記する。このままでは労働だけを求めている、協働事業とは言えないある程度の自由度を持ってプロデュースできるということを付記してもらおうということも可能

ではないか。先程も触れたが、事業に関する条件の項目については、行政としては問題があると思った。次の提案に移りたい。産業振興課について。

委員：確かにJRの駅前も普段でもすごくさびしい。これをやることによって、多少なりとも生き生きとしてくれればという気持ちはある。私は是非採択したい。

委員：駅前はまちの入り口なので、おーっと思えるようなものがあるとやはりよい。そのきっかけづくりとしての提案なら賛成。

委員長：私もその駅からきているのだが、地方都市の駅前と言うのは、みんなあんな感じ。デザインもよく似ている。寂しいのは、単にあそこだけの問題ではないと思う。町全体の産業振興、観光振興の取り組み方や、景観全体の作り方等を考えないで、ガーデニングだけでお〜っと言わせようという発想自体がどうかと思う。その部分が非常に不十分だと思うが、先程の意見のように、市民側に意気に感じる方がいて、応募されてきて産業振興課とすり合わせをしながらやっていくことに期待できるのであれば意義はある。

委員：駅前に綺麗な花壇が出来れば素晴らしいと思うし、上手な申し込みの仕方をしていてかなり制約がある。市民側にしても、花壇づくりが好きな団体があれば良いのではないか。協働になるのではないか。委員長が言ったように、観光の面、武家屋敷や堀田邸を主体にしているのであれば、わかりやすい看板等が欲しいと思っている。まずは花壇を皮切りに進めて行っていただければと思う。

委員：駅前のガーデンがきれいになるのは良いことだと思う。色々な人が関わり、人が増えることで動きが出来て違ったものが展開していくのではないかとすることに期待したい。ハイキングをしても休む所がないという意見もあるのでトータルな面で考えていただきたい。

委員：景観の問題等も出てくると思うので、この事業をきっかけに、とりあえずやってみると言うか、一つの事業から始めるのが大事だと思う。関わる人がやりがいと言うか、短期間で成果が出てくるので、協働としては良い事業だと思う。

委員長：個人的には、産業振興課が音頭をとり、ワークショップ等の市民参加を大々的に得て、全体の設計と武家屋敷などに連なる回遊路を含めてデザインするという大規模な取り組みが必要だと思う。そこまでは出来ないがこういう形で市民の活力を活かして、やろうと言うことであればやってみてもらっても良いかと。佐倉市は本当に観光資源に富んでいるのに、それに見合った活性化が発生していないのは本当に残念なので、これ

がきっかけになれば。

今までの協議の流れとしては、産業振興課は良く、公園緑地課は疑問点が残る。

ただ、条件を付けて何とかしたいという意見もあった。

今から議決をするが、採択された所について、条件を付けるかどうかを、議決した後にまた協議したい。

公園緑地課の提案について、賛成する方は挙手を。

可否同数。委員長は否。

公園緑地課の提案については、可否同数ということで委員長裁量となる。可とすると条件を付けるということになるが、条件の付け方が難しいと思う。具体的な条件付けに提案をいただければ可とできるが、そうでなければ否としたいがいかがか。積極的な条件が付かないと委員会としては採択しづらい。

委員長判断で否としたいが良いか。

全会一致で「否」

それでは、否とする。市民の委員の方々の期待が大きいということは担当課にも伝えていただきたい。

産業振興課の提案について、賛成する方は挙手を。

全会一致で「可」

産業振興課に条件付けする必要はあるか。

委員：花の苗以外に機材を持っていないのであれば貸し出すとのことだったが、その際は公園緑地課と横の連携をして下さいと言う条件を付けてもよいのではないか。

委員長：人件費も入るとのことだが、市民協働事業の枠組みとしてそうなっているのか。

事務局：委託契約なので、人件費も含む。

委員長：他に条件はあるか。それでは、提案のあった行政側も横の連携を活用して、費用の削減に努められたいと言う条件というか、意見を付けて可とする。議事の(1)は終了とする。時間の関係で、自治会への支援のあり方については次回に持ち越さざるを得ない。

(2) その他

事務局：第5回以降の委員会の日程調整について。用紙を配布したので、候補日を記入していただきたい。第5回に審議する内容については、24年度の行政提案型の応募に基づくプレゼンテーションを予定している。また、まちづくり協議会を市内で設立に向けた

話し合いをしている所もあるので、事業申請がある可能性がある。期日については、団体が応募をしてから、と言う形になるので、事務局で確認してから会議という流れになる。2月のいずれかに実施していきたい。本日は欠席委員もいるので、改めて調整し、結果を後日連絡する。第6回の会議について。委員会の最終日に行われる採択事業の評価については、各団体から事業報告書が提出され、事務局が資料を作成した後になる。実績報告書が提出されるのが3月中旬になるので、どうしても3月末にせざるを得ない。日程は、3月31日(土)13時半から開催したい。

委員長：事務局になるべく精度の高い資料を作っていただいて審議をしたいということで3月31日ということになった。第5回については調整をしていく。

委員：第5回について。日程が分かって来るのはいつごろか。

事務局：委員の皆様から候補日の提出が済んだ段階で。平成24年度の行政提案型を広報さくらで募集するのだが、掲載の〆切日から逆算をする形で、日程をはじき出した所、概ね2月中。

委員長：〆切から2,3日中には決まると期待して良いということか。

委員：勤めているので、2月のスケジュールでは、平日は難しい。

委員長：来週の中旬くらいには日程についての返事が欲しいということで欠席委員に送付し、来週中に確定することはできないか。その際、なるべく土日を選んでいただきたいということを付記すると。

事務局：そのようなスケジュールで進めていきたい。

活動報告会について。前回の委員会議で議論していただき、結論からすると昨年度の方向性で良いとのことだった。昨年度は大きく3部構成に分かれていた。第1部は採択された団体の事業の紹介。第2部は西本氏による講演、第3部は西本氏による全体コメント、アンケートに対する回答だった。その後、市民協働推進委員会を行い、根郷まち協の審査、報告会についての意見交換を行った。前回の委員会において、報告会後の委員の意見や、昨年度のアンケート結果を報告して欲しいとのことだったので、大まかに説明したい。まず委員会意見としては、参加人数と講師の話題が上がっていた。アンケート結果については、そもそもアンケートの回答形式が選択形式で、内容が良かったかどうかということについては、回答者の概ねがそのやり方で良かったという回答結果だった。市民からは、個別の意見はほとんど無かったが。具体的にいうと、報告会の構成として、

3部構成で良いという意見が8割を占めていた。それらを踏まえて、平成22年度と平成23年度の対照表を作らせていただいた。平成23年度を中心に説明させていただく。コンセプトとして、助け合いのできるまちづくりとすることで提案させていただいた。この背景としては、3月11日の東日本大震災があった中で、絆、助け合いが重要視されているため。11月30日に、委員長の研究室に赴きいただいた意見について、修正点としてコメントに加えさせていただいた。コンセプトとしては、委員長としては、必要な要素として、町の活力、町の資源の掘り起こし、仲間の輪を広げると言う要素を入れるのはどうかとのことだった。また、今年度は前日の土曜日から中央公民館の大ホール等を借りて、ポスター展を開催したいと考えている。これは、前回の委員会で採択団体以外の卵の団体も参加させた方が良いのではないかとする提案や、サポートセンターとの連携についての提案などがあったので、より一層市内で活動する団体の活動内容について市民の皆様を知っていただく機会として設けた。

今年は8つの採択団体があったので、8団体で概ね40分くらいの説明時間を考えていたのだが、委員長から生の団体の声をより広く知ってもらう必要があるのではないかとする意見があり、時間を8団体で1時間の枠を設けた。当然ながら、ポスター展を前日から行っているのだから、ポスターの前に団体を配置して、自由に来場者と団体さんがコミュニケーションをとれるようなポスターセッションの形をとりたい。特徴としては、市民協働に関連する団体だけではなく、市内の様々な団体を巻き込んでいく、とすることを考えている。第2部として、委員長に講演をお受けいただいた。テーマについては、多様な人たちが繋がるまちづくりということでご講演をいただく予定。また、平成23年度の報告がメインになるので、その点を踏まえながらお話いただく予定。第3部として、昨年度と同様に、事前に参加者から質問を集めて、それに対する回答を講師からいただく予定。その後、参加いただいた委員の皆様には、来年の報告会・講演会に生かすために皆様に意見交換をしていただきたい。また、今後、新たなまちづくり協議会の審査・選定になるようであれば併せてお願いすることになるのでご承知おきいただきたい。

委員長：僭越ながら私が講師を務める。従来もこのような形があったので、講師を引き受けたと思う。委員長が講師をする時はある程度中身を知っているということで、第1部の内容を踏まえた講演の内容にしたい。意見はあるか。よろしければ事務局に実施計画の詳細について煮詰めて対応していただくということにしたい。確定したら委員に提示をし、ご案内をしていただく。

委員：団体の発表にあたって事前にアドバイスをするのか。団体によっては説明技術に不安がある気がした。

事務局：ある程度目的、概要、結果、制度、課題等も説明させていただきたい。お願いな

のだが、コンセプトについて候補を挙げてもらいたい。

委員長：すぐに思いつかなければ、日程のメールと併せて送ってもらいたい。既に候補として挙がっているのは、私のイメージとして発想したので、それならこうした方が良いという意見が委員からあればよろしくお願ひしたい。それでは、「その他」の次の項目について事務局から説明を。

事務局：平成 23 年度の採択事業の評価をどのように行うか説明させていただく。説明の後、意見をいただきたい。平成 22 年度の事業評価においては、12 月 27 日実施の第 4 回に確認がなされている。本来であれば当該年度に実施するという事だったのだが、震災の影響で実施できず、年度を改めた平成 23 年度の第 1 回委員会で評価した。その場で評価方法について確認いただいた際、従前どおりの評価方法を行うということで了解を得られた。確認がなされている事業評価の方法として、次年度に向けた団体へのアドバイスにウエイトを置いて、将来に繋がる意見を出していただく。委員会から市へ出された意見は、その旨を団体へ伝える。予算については、監査の意味合いもあるので、使われ方について気付いた点があれば意見をいただく。大きくこの 2 点を、了解いただいた。実際の評価にあたってどのように実施するかについては、事前に事業報告会で採択団体から説明するので、詳細については報告会の席上の中で出席委員が聞くと言うことを念頭に置く。今年度は 3 月 31 日に事業評価を行う予定だが、事務局で実績報告書を基に説明し、審議いただく形になる。審議時間が短いという意見も頂いているので、今回は行政提案型も無いため、審議時間を長めにとる予定。評価方法について、委員会として従前通りで良いかの確認をしてほしい。事業報告会についても、参加できる委員の方には出席いただき、意見交換をしていただきたいのはこのためでもある。

委員長：基本的には第 1 回で将来に繋がる意見を付すということで同意している。念の為もう一度確認するという事。2 月 26 日の報告会で各団体から概要説明が行われるので、委員の皆様にはぜひ出席していただきたい。報告会の終了後に意見交換を行うので、そこにも是非参加していただきたい。評価方法について改めて意見のある方はいるか。よろしければ、第 1 回に確認いただいた通りで行う。残念ながら、自治会への支援についての協議は今回はできなかったもので、次回行いたい。議事録署名人は、私と副委員長の他に名簿順から伊藤委員だが、欠席なので次の寺田委員に願ひする。これで会議は終了する。

平成24年1月31日(火)

| | | |
|--------|-----|----|
| 委員長 | 名和田 | 是彦 |
| 副委員長 | 浅野 | 訓子 |
| 議事録署名人 | 寺田 | 純子 |